

報道関係者各位

2014年7月17日
ボストン コンサルティング グループ

(本プレスリリースは、米国で発表されたプレスリリースの抄訳です)

世界資産運用市場：2013 年末の預り資産は前年比 13%増の 68.7 兆ドルとなり、 2 年連続過去最高を更新

日本は前年比 18%増の 4.4 兆ドル(432 兆円)

米国ニューヨーク発、2014年7月17日 — ボストン コンサルティング グループ(以下、BCG)はグローバル・アセットマネジメント・レポートの2014年版「*Global Asset Management 2014: Steering the Course to Growth*」を発表しました。

資産運用市場の市場規模は 2 年連続で過去最高を記録

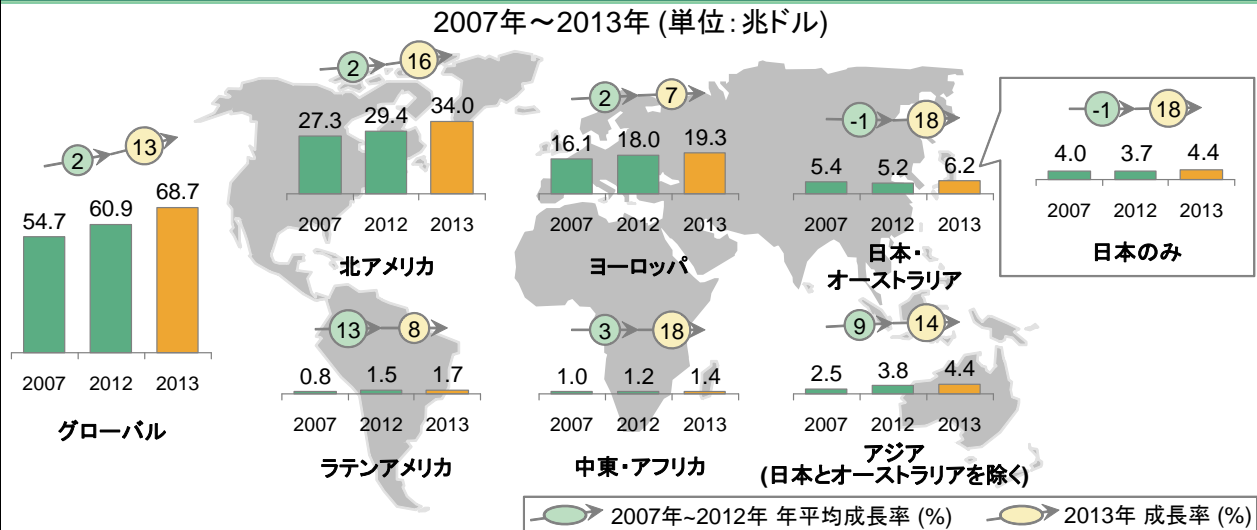
2013 年末の運用預り資産は 2012 年比 13%増の 68.7 兆ドルと、昨年に続き過去最高を記録しました。地域別にみると、いずれも 2012 年末比で、中東・アフリカが 18%増、日本とオーストラリアの合計が 18%増、北アメリカが 16%増、日本とオーストラリアを除くアジアで 14%増、ラテンアメリカが 8%増、ヨーロッパが 7%増となりました(図表)。日本における預り資産は、4.4 兆ドル(432 兆円)、2012 年末比 18%増と推計されました。市場の成長速度は一様ではなく、新興国の一部で預り資産の拡大スピードが鈍化した一方で、先進国や他の新興国では昨年以上の成長となりました。全体で見ると、先進国の成長率が 13%、新興国の成長率が 14%となり、世界全体の預り資産における新興国のシェアは横ばいの 9%にとどまりました。

運用会社の収益も好調だが、業界の構造変化を注視すべき

運用会社の営業利益額は世界全体で 930 億ドル、利益率も前年から 2%ポイント改善し 39%に達したと推計されます。預り資産拡大や、コスト削減が功を奏し、利益率は 2005 年から 2007 年にかけての水準(41%)に近いレベルまで回復しました。預り資産拡大は、堅調な株式市場の影響で資産価値が底上げされた効果が大きいものの、新たに流入した資金の割合も、前年の預り資産の 1.6%と、金融危機以降で最も高いレベルとなりました。ソリューション型、スペシャリティ型など新しいタイプのファンド(非伝統的資産)へ資金が流入する傾向は続き、「業界環境はおおむね良好ですが、アクティブコアなど伝統的な運用スタイルのファンド中心の運用会社は、楽観視するべきではありません」と、本レポートの共同執筆者であるブレント・ピアズリーはコメントしています。

本レポートでは、業界の 5 つの大きなトレンドとして、「規制変化」「デジタル/データ革命」「より要求が厳しくなり、非伝統的資産への選好を強める投資家」「非伝統的資産の運用を提供する競合他社」「グローバル化」を取り上げ、解説しています。

地域別運用預り資産額推移



注: Sizing corresponds to AuM sourced from each region and professionally managed in exchange for management fees; Includes captive AuM of insurance groups or pension funds if those AuM are delegated to asset management entities with fees paid; For all countries whose currency is not the U.S. dollar, we applied the average 2013 exchange rate to all years. AuM numbers differ from those in last year's report mainly due to differences in the exchange rates, but also revisions of country data. Apparent discrepancies in growth rates are due to rounding

出所: BCGグローバルアセットマネジメント・データベース2014

© BCG 2014 - ALL RIGHTS RESERVED.

■ 日本における担当者

大平 正秀 パートナー&マネージング・ディレクター



慶應義塾大学経済学部卒業。ミシガン大学経営学修士 (MBA with Distinction)。東京ガス株式会社を経て現在に至る。

BCG オペレーショングループの日本リーダー。金融グループ、保険グループ、エネルギーグループ、組織・人材グループのコアメンバー。

山井 康浩 パートナー&マネージング・ディレクター



東京大学教養学部卒業。マサチューセッツ工科大学経営学修士 (MBA)。日本銀行、米国系戦略コンサルティングファームを経て現在に至る。

BCG 金融グループ、保険グループのコアメンバー。

■ BCG グローバルアセットマネジメント・レポートについて

BCG では、主要国における市場調査と大手運用会社を対象にしたベンチマーキング調査を基に、資産運用市場と運用会社の動向についてまとめたレポートを毎年発行しています。12 回目となる今回は、120 社を超える大手運用会社と、グローバル市場全体の 98%にあたる 43 カ国について調査を行いました。

英文レポートへのリンク

「*Global Asset Management 2014: Steering the Course to Growth*」

https://www.bcgperspectives.com/content/articles/financial_institutions_global_asset_management_2014_steering_course_growth/

■ ボストン コンサルティング グループ (BCG) について

BCG は、世界をリードする経営コンサルティングファームとして、政府・民間企業・非営利団体など、さまざまな業種・マーケットにおいて、カスタムメイドのアプローチ、企業・市場に対する深い洞察、クライアントとの緊密な協働により、クライアントが持続的競争優位を築き、組織能力(ケイパビリティ)を高め、継続的に優れた業績をあげられるよう支援を行っています。

1963 年米国ボストンに創設、1966 年に世界第 2 の拠点として東京に、2003 年には名古屋に中部・関西オフィスを設立しました。現在世界 45 ヶ国に 81 拠点を展開しています。<http://www.bcg.co.jp/>

bcg.perspectives サイトでは、様々な業界・分野に関する BCG の知見をまとめたレポート、記事およびインタビュー映像などをご紹介します。<https://www.bcgperspectives.com/>

■ 本件に関するお問い合わせ

ボストン コンサルティング グループ
マーケティング 伊原

Tel : 03-5211-0600 / Fax : 03-5211-0333

Mail: press.relations@bcg.com